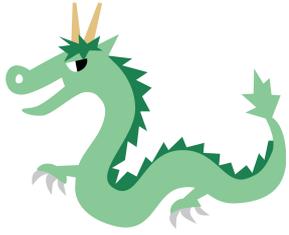


いよいよ12月・・・令和6年最後の月となってしまいました。



振り返ると今年は「辰（竜）」年ということで、年初めの1月号の中ではみなさんに『竜頭蛇尾（りゅうとうだび）』【はじめは勢いがあるが、終わりがふるわないこと】とか『画竜点睛（がりょうてんせい）を欠く』【最後の肝心な部分が抜けてしまい、不完全な状態になること】といった「竜」という言葉が使われている代表的な言葉を紹介しました。そして、私個人としては1年の終わりにこの言葉のような1年にしないことが今年の抱負だということもお伝えしました。



それではみなさんにとってこの1年はどんな1年だったでしょうか。「竜頭蛇尾」の状態になってしまったという人はいませんか？「終わりよければ・・・すべて良し」という言葉もあるように、1年の大事な締めくくりとなるこの12月、ぜひみなさん一人ひとりがもう「ひとがんばり」で「有終の美」を飾ってほしいと願っています。

ところで、「12月24日は何の日でしょうか？」と尋ねられれば、大部分の人が「クリスマス・イブ」と答えると思いますが、実は12月24日は「学校給食記念日」でもあるのです。それは第2次世界大戦後の1947年12月24日にアメリカのLARA財団（アジア公認救済団体）という団体からの給食用物資が東京都のある小学校に贈呈され、戦争により中断せざるをえなくなっていた日本の学校給食が翌1月に再開したことに由来しています。

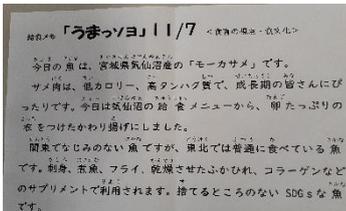


岩戸支援学校では令和4年度より自校調理の給食が開始され、2年半以上が経過しました。戦時中や終戦直後の時代と違い、「飽食の時代」といわれる現代においては偏った栄養摂取、肥満傾向など食生活習慣上の様々な課題を抱えている子どもたちが増える中、本校においても学校給食がはたす役割は非常に大きいとあらためて感じているところです。

そのような中、給食や食に関する「うれしいお知らせ」が2つあります。一つ目は、岩戸支援学校が「令和6年度神奈川県学校給食優良学校」に選ばれ、11月17日に行われた県庁での表彰式において表彰されたことです。この表彰は単に給食そのものについてだけでなく、学校全体での食に関する取組み（食育）や厨房などの衛生管理などについても評価されたこととなります。今年度は県内の小学校2校と岩戸支援学校の計3校のみが表彰を受け、大変名誉なことでもあります。



これまで毎日の給食献立を写真付きで岩戸支援学校のHP（ホームページ）に掲載したり、服部栄養教諭がその日の献立や食事に関するワンポイント解説をした「うまっソヨ（＝日本語の「うまい」とハンゲル語でおいしいという意味の「マシッソヨ」を合わせた造語）」というプリントを毎日作成し、各クラスに配付したりと、地道な取組みを行ってきた結果だと大変うれしく思っています。



もう一つは、神奈川県教育委員会が主催する今年度の「かながわ学校給食夢コンテスト」において「夢の献立」部門に自分で考えた夢のメニューを応募した岩戸支援学校1年生の生徒の料理が見事入賞し、このたび表彰を受けたことです。応募メニュー名は「サバのきのこトマトソースがけ」で、「野菜で笑顔あふれるで賞」という賞を受賞し、今後実際にそのメニューが本校の給食で提供され、後日フジスーパーでも販売されることになりました。おめでとうございます。

それでは、来年がさらによい年となるよう願っております。1年間ありがとうございました。